し講にま前向会 子話最た座第す語 きでタ ° ŋ が一 は鶴 漆回今部四毎の 山目年養·年里 小の度成五 学出は講年漆主 校前十座生山事 で語二をを小業 行り月行対学実 わ部十つ象校行 れ養二てにに委 ま成日い出出員

し駿強き美民 しくしそさ会初 たんたのんゆに が五あよう行 代年とりづわ 表生にごるれ での去あ会た 語中年い長全 りか語さの体 をらりつ多会 披小のを勢で 露川勉頂久は

了

班ごと各

生た極始室 り的しに 、にまわ 練テ講しか キ師たれ にスの 励卜先生語 んを生徒り で見へたの いな質ち練 まが問は習 しらを た一し積開



夕鶴の里資料館報 平成25年12月20日 36号 夕鶴の里

Tel 47-5800

一での

十展制里染

十し業織

金 二 た





歓ラ心五ラ色めもナはル 事 様 |温名| たたたルグク昨業 よこ のばまのがっもまマレロ年で 声かるオ完ぷのねフースはあ りの日が作事め | スはあ支事 がり、リ成りをぎラドを、 上で個ジしの使や | ア制オ り援業、をは をはま月オ川の 性ナたオ用緑をツ作リ今頂山で一 の来あル。リし茶制プしジ年い形開日ジひ験 て館ふマ受ジ、、作したナでて県催(ナさ学 い者れフ講ナぬ紅し、がルニ開蚕さ日ル子 て館ふマ受ジ 11- 2 11-

水た。 調月 理二 室十 の六 大日 除 をに、 行

ま年

来!のかん の気持ちを込めておかかりましたが、一つんなで取り組みましたが、場やコンロを重点的 を 磨年^た。 き間2、まの時職 し感間員

おります。まま使用、来年から ていけたら ピカピカの状 なと思 心って



では、一人のない。 が江南 「承されている。、時代から「鶴の のる

もてなすといい」ということだったもてなすといい」ということだった、「地酒で生を迎える準備をし、松谷みよい」と言うので、さっそく木下先下先生が「夕鶴の里に行ってみた下先生が「夕鶴の里に行ってみたるれから何年経ったろうか、木 それから何年経ったろうか、んに語り聞かせることとした。

げよう。 男から るが、そこと三ヶ √から呼ばれて行ってみると、その時に、木下さんが柳田国 田 に か 所だけに「タ 6 び 座 が 鶴

0)

で、

間

に

移

転 お ろ

** \

たし

ょ

う

ょ

L

<

おの

株に庶民文学としてそれを劇になって今日では常識になっている。 お〉という語彙を使われたが、民 話〉という語彙を使われたが、民 がしたと言うことを教えてくだ さった。また、木下先生は〈民 がである」と、柳田先生の説に反 がをでは〈口承文芸〉が専らであ がである」と、柳田先生の説に反 なって今日では常識になって、分野違 おっしゃるが、私のおして民俗学 ヨーロッパでは民 私学ので のであった。今は私氏間説話を短めて 分 そう

夕 鶴の里特 別 研 究 員 武 田

5

正



.廻って東京に帰られた。朝はすっかり機嫌がよく、

曲

「夕鶴」

山本安英さん

鶴布山珍蔵寺

定参持

正員:約十五人(参加費:二○○円 行ち物:エプロン・三

しね~!(要予約)

:エプロン・三角

一巾・タオル

午前十時~

ん。 れあ 漆山 民館

公民

A

X

号

変

更

あ

ŋ

ま

な 1

。 お、

電話

F

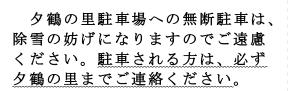
Α せ X たし

ます



べっこう飴を作って

電 記話 ・ F 七一二五一



 \mathbf{TEL} 47 - 5800

年始休館のお知らせ

(金)

て

元

J

A

漆 タ

ま山

V

交流 より

ン 山

1

願なし支とふ日公内

セ漆

地 +

区 三 あ

り

ま

L

た

漆

山里

が

十二月

休館日

